

令和5年度第1回世田谷区立図書館運営協議会

日 時：令和5年7月21日（金）午後6時33分～午後8時33分

場 所：教育会館3階大会議室「ぎんが」

出席者：委員（15名）

【学識経験者】糸賀委員（会長）、西村委員（副会長）、石原委員

【公募区民】登坂委員、浜田委員、松田委員、宮岸委員

【社会教育関係者】佐藤委員

【教育機関関係者】豊泉委員

【図書館活動団体関係者】稲葉委員、安富委員

【図書館関連事業関係者】郡司委員、平野委員

【世田谷区立小中学校長】金子委員

【区職員】知久委員

事務局（3名）

次 第：

- 1 新委員自己紹介
- 2 世田谷区立図書館運営協議会の評価・検証について
- 3 改築後の梅丘図書館について
- 4 その他（事務連絡）

午後 6 時33分開会

会長 それでは、定刻を過ぎましたので、令和 5 年度第 1 回の世田谷区立図書館運営協議会を開催いたします。

本日のこの会議の出席は15名が予定されております。今年度から替わられた中学校長の委員の方が、急な公務のため本日は欠席となっております。

本日の協議会は速記者の方が入っております、会議録として資料を含め、後日ホームページで公開される予定です。

また、本日は傍聴の方が入っております。何名の傍聴か、事務局から御報告をお願いいたします。

事務局 本日、傍聴の方は 7 名入っております。よろしくをお願いいたします。

会長 ありがとうございます。

本日は、新年度、年度が変わりました。ただ、皆さんの委員の任期は 2 年ということになります。2 年目の最初の会議ということになります。

早速、お手元の議事次第に沿って議事を進めさせていただきます。

初めに、年度が変わりまして若干の委員の変更がございました。資料 1 に委員名簿が用意されておりますが、小学校、中学校の校長先生、並びに世田谷区の部長さんも替わられております。申し訳ないですが、自己紹介をお願いできればと思います。

(自己紹介省略)

会長 ありがとうございます。それでは次に、議事の 2 番目、世田谷区立図書館運営協議会の評価・検証についてとなっております。これは正確には図書館運営協議会による評価、検証をどう行っていくかということになります。この資料 2、あるいは資料 6 あたりも関係するでしょうか。この説明について事務局からお願いしたいと思います。よろしくをお願いします。

事務局 今、会長から御案内がございました資料 2 の世田谷区立図書館運営協議会についてというこちらの資料 2 のほうを御覧いただければと思います。最初に、1 番、2 番、3 番の(1)というところまで、前半部分をまずは説明させていただきたいと思います。

資料 2 の 1 番、令和 4 年度協議会の会議結果についてということで、資料 3 を御覧ください。

さい。こちらはメールで事前に皆様にも御報告させていただいたものでございます。昨年度の図書館運営協議会では、第2次図書館ビジョンの基本方針1～6ごとに第2期行動計画の令和3年度における施策の方向性及び主な取組みについて、いわゆるマクロ的ということで協議会の中では御案内があったかと思いますが、そういった全体の図書館ビジョンの評価を行い、皆様からの御意見を反映した最終的な評価シートになってございます。

2番のところは、また改めて今後の開催日程というところで御報告したいとは思っていますが、一応今年度も昨年度と同様の開催回数を考えております。

3の(1)というところなんです、第3次世田谷区立図書館ビジョン、令和5年度の部分について御報告をさせていただきます。こちらは、ただいま区立図書館のほうでは第3次図書館ビジョンを策定検討委員会というところで検討しておりまして、昨年度、この評価シートの資料3のほうをまとめさせていただいた際に皆様からたくさんの御意見をいただきました。こちらメールで共有をさせていただいたところでございますが、6月21日に、第3次図書館ビジョン策定検討委員会で、副会長に当日出席していただいて、昨年度、図書館運営協議会で話し合ったことがどんな内容だったのか、これを次のビジョンに反映していくにはどんな意見が出ていたのかということをお報告いただきました。その報告の意見一覧が、こちら資料4になってございます。

また、この第3次図書館ビジョンについては、現在素案をつくっている状況でございますが、この協議会の中でもまた御意見をいただくなど、御報告していければと思っております。

昨年度の取組というところで、前半部分、簡単ではございますが、御説明させていただきました。

以上でございます。

会長 ありがとうございます。ただいま事務局からこの資料2の、番号でいいますと1と2と3の(1)、ここまで御報告をいただきました。ここまでにしまして何か御意見、御質問があればお出しいただきたいと思っております。いかがですか。

もしも皆さんからの御質問がまだ出ないようでしたら、実は今も説明がありましたように、第3次の世田谷区立図書館ビジョン、私どもが評価、検証しているのは第2次のこの図書館ビジョンなんです。これが令和5年度、つまり今年度までですから、令和6年度以降は第3次の図書館ビジョンで進められるということになります。その策定を現在、別の

策定検討委員会で行っていると、それに対して、この運営協議会での意見や要望を多少なりとも反映させるということで、6月21日に開催のビジョンの策定検討委員会に副会長に出させていただきました。実はこの日、たまたま私が別の会議とちょうど日程がバッティングしまして出席できませんでしたので、急遽、副会長に出させていただきました。

副会長、いかがですか。そのときの感触だとか、保坂区長自身もこの会議に出席されたということもありますので、感想なり、ちょっと簡単な報告をお願いできればと思います。

副会長 基本的にはこの資料4を報告したということになるんですけども、質疑応答で幾つかコメント等をいただきました。一つ目が、図書館による自己評価ベースの今回のその評価方法について、それが妥当かどうか議論がありましたか、との質問がありました。これに関しては、評価シートはどうしても統一されたフォーマットで埋めなければいけないという制約はあるものの、定量的な話だけではなくて、定性的な話も拾えるように、なるべく意見させていただきましたという回答をさせていただきました。

それから、もう一つ、基本方針が6つある中で、特に課題が残りそうな方針はありましたかということを探られました。特別この方針はすごい課題が残りそうだねという議論はなかったものの、特にコメントが多かったところでいうと、この資料4にもあります通り、基本方針1の0歳児からの読書を支える図書館という部分で、中高生に係る取り組みがちょっと弱いといった意見がこの会議の中でありましたので、その旨はお伝えしました。あと、方針2のところでも、特に選書の基準が大事という議論がこの会議でも結構盛り上がりましたので、その辺を意見としてお伝えはいたしました。

あと保坂区長からも幾つかお話がありました。まず、二子玉川と三軒茶屋と、あと下北沢に図書館カウンターができて、結構利用率が上がっているということで、そういうサービスの在り方は今後大事だよという話がありました。また、社会が変わる中で、ただ本を貸すだけではない、何かコミュニティーの居場所とか、人生を支える場所としての図書館みたいな在り方は今後大事ですよという話が、区長からありました。このような状況下で、指定管理がそういう図書館の在り方にフィットするかどうかみたいなことも、割と区長は気にされておりましたが、そこに関しては僕のほうの個人的な経験談にはなりませんけれども、区の直営のときよりも、むしろ指定管理後のほうが、僕が活動しているあおぞら図書館への協力という点では、かなり手厚くボランタリーに図書館のスタッフ皆さんが

動いていただいておりますので、指定管理も一概に悪い訳ではないということをお願いはさせていただきます。

以上です。

会長 ありがとうございます。今、そのときの様子の一部を副会長に御紹介いただきました。今の点も含めまして、先ほどの3の(1)あたりまで何か皆さんのほうから御発言があれば今受けたいと思いますが、いかがですか。特にないでしょうか。もちろん図書館全体に関わることで、今日の会議の中の後の問題と関連づけて、後ほど御発言いただいてもよろしいかとは思いますが。

それでは、差し当たり、次の議題というか、説明に移らせていただきます。先ほどの資料2に戻りまして、3の(2)以降についての御説明というか、御報告を事務局からお願いしたいと存じます。

事務局 それでは御報告させていただきます。

こちらは案として、今回資料5-1と資料5-2、そして参考資料ということで、こちら資料5-3のA3のものを今、机上のほうに置かせていただいております。昨年度は、先ほど御報告させていただいたように、第2次図書館ビジョンに基づく取組の中でも、全体の評価ということをしていただきました。そういった中で、今年度については、各館の評価というところを主にやっていけないかということ、事務局としては案をつくらせていただいております。今日はこちらの様式、いろいろ御意見をいただければと思うんですけども、資料5-1、5-2、特に5-2のところ、例示として記載をさせていただきましたので、こちらを御覧いただきながら御説明させていただければと思います。

資料5-2ということで、こちらは 図書館というふうにはなっているんですが、割と具体的な記載も出てきたりするので、何となく分かってしまうかもしれないんですけども、施設の概要といったところは基本情報として記載をさせていただいた上で、左上の囲みのところに令和4年度の取組みの目標を定めてもらうのはどうかと思っております。ただ、あくまでもやはりこれは図書館ビジョンに基づく取組というところから外れないように、それで今日、第3期の行動計画のオレンジの冊子も持ってきていただいたんですが、こういったところにしっかり記載のある取組について、主に1つから2つ程度、各館でそういう目標みたいなものを、昨年度、どういう目標設定でやったかというところを

挙げていただいて、その下の囲みのところ、今回目標として挙げている取組が、1つは、「地域で活動する団体との関係を築く」「世田谷の教育・文化機関と連携する」というところで、具体的には、三宿あおぞら図書館の取組を1つ挙げています。もう一つは、本の病院という取組を例示として挙げております。この三宿のあおぞら図書館の取組というのは、世田谷公園で大学と連携して、区のほうで除籍した資料などを提供して、大学生が運営するところを支援してきた、そういう取組になっております。また、本の病院のほうも、こちらも大学と連携して、本の修理などを通して本を大切に作る気持ちを醸成したりと、そういった取組になっております。

また、もう一つ挙げてもらったのがパネル展です。三軒茶屋の発展をテーマに、東急電鉄と連携してパネル展をしたという取組を2つ例示として挙げております。

それなので、目標があって、どういう取組をしたかと、その上で右側のページのほうで自己評価として、こんなことができた、こんなことが課題だったというようなことを挙げてもらい、それに対して、この協議会からいろいろな御意見をいただいて、各館として、令和6年度の取組にしっかり反映をして、それができたのかできていないのかというところを、令和7年度に令和6年度の取組を報告してもらい、それを協議会の中でまた見ていくというようなサイクルになっていくのかなというところで記載をさせていただいております。このあたりはいろいろまた御意見もおありかと思しますので、御発言いただければと思っております。

ただ、できれば地域館15館と中央図書館の16館について、こういった1つ、2つ、設定としては自由に項目を挙げてもらいながら、図書館ビジョンの取組というところで自己評価、それに対する意見、PDCAを見ていければいいのかなというところで書かせていただきました。具体的には、この資料2の裏面に今後の進め方ということで、記載をさせていただいております。1回目が7月21日の今回で、今年度のこういった各館の評価についての方向性というか、皆様に見ていただいて、いろいろ御意見をいただきながら、修正して、また修正があれば、改めてお示しをして、次回10月のときには、まずは、例えばなんですが、この中央図書館と、それから世田谷、梅丘、烏山、下馬、経堂と、いわゆる委託や指定管理を行っているような館と中央館というところあたりを1つ皆さんにも見ていただいて、3回目にその他直営館の10館というところで、また同じように御意見をいただいて、最終的に4回目の3月に各館の取組状況に関する検討のまとめというところができるのかなと思っております。

この4番の進め方のところに、記載が「各館の取組みに状況に」と「に」が入ってしまっていて、正しくは「各館の取組み状況に関する検討」となります。申し訳ございません。

また、参考に資料6というものをつけさせていただいております。こちらは指定管理者の施設に関する区議会の常任委員会での報告をした資料になっております。あくまで参考ということで今回つけさせていただいておりますが、実際に報告した事務局の者から御説明いたします。

事務局 それでは、資料6について簡単に御説明いたします。

皆さんも御存じでしょうが、従来は地方公共団体が開設している公の施設というのは、地方公共団体自身が出資した法人とか、社会福祉法人などの公共的団体、第三セクターに限定して管理や委託が制限されてきました。平成22年の地方自治法の改正に伴って、営利団体や財団法人、NPO、市民グループなどに包括的に代行させることができる制度になりました。この制度を実施するに当たって、区では条例を制定し、制定に当たってはプロポーザルを実施して、指定管理者の候補を選定した後に、区議会の決議を経ることと定められています。

さらに、世田谷区では、世田谷区指定管理者制度運用に係るガイドラインというものを定めて、これに基づいて指定管理者の透明性をより一層高めるために、毎年度指定管理者から区に提出される事業報告書の内容を整理して公表しております。それをさらに区議会の常任委員会、区民生活常任委員会であるとか、文教常任委員会とかとあるんですけども、こういった所管ごとに基づいて常任委員会報告をさせていただいております。今見ていただいているのが、去る7月5日に文教常任委員会の所管分として事業報告をさせていただいた内容になっております。

また、この事業報告書は、資料6の別紙1以下にあるとおり、書式が決まっております。区の指定管理者の全ての施設ごとに行っております。区が定めたフォーマットの内容は、御覧いただいたとおり、指定管理施設の概要、それから業務実績、利用状況に関する事項、指定管理に関する業務の収支などの多岐にわたっており、先ほど来御説明しているとおり、例えば美術館や文学館、もしくは川場にある区民健康村などの様々な指定管理をしているところ全てにおいて、このフォーマットで報告を受け、評価をさせていただいたところを、おのおのの常任委員会で御報告するという内容でした。今回お示したのは、

我々文教常任委員会で教育委員会に当たって指定管理をしているのは、たまたま図書館だけなので、図書館だけの御説明をさせていただいたということになります。内容は後ほど御覧いただきたいと思います。

説明は以上です。

会長 今、事務局より御説明いただきました。ただ、若干話がやっぱり入り組んでいます。まず前半が、やはり資料5で今年度、この運営協議会がどういう評価をやるのかということの確認というか、説明なんです。それについてまず皆さんから意見、質問を出してもらったほうがいいと思います。後半は、今、説明のあった資料6、これは図書館の中でも指定管理に出されているものについて、議会の文教常任委員会が所管しているものとしてかなり詳しく評価をやったものなんです。これを別にこの運営協議会で取り上げることはないので、これはもう既に議会でやっているわけなので、まずは私どものこの場が、令和5年度、今年度、昨年と違ってどういことをやるのかなんです。ただし、昨年は、既に御承知のとおり、世田谷区図書館全体の評価をやったわけです。今年度はもう少し各館レベルに、個別に見ていきましょうということで、資料5-1にあるような各館取組みシート、これを用いて、中央図書館を含めて16館ですか、これを個別にやっていきましょう。つまり個別にそれぞれ目標が違っていたり、うちの地域ではこの図書館はこういうことを目標に掲げて1年間サービスをやっていこうというのがありますから、当然取組内容は15館の地域館で違っていいわけですよ。それをもう少し細かく見ていきましょう。

ただし、この評価シート、見ていただいたら分かるように、昨年度の世田谷区全体の評価シートをかなり参考にしております。それと全く違う評価シートではやりづらいので、それを手がかりに、資料5-1にあるような評価シート案を事務局のほうで用意したと。ただ、この空欄だらけでは分かりにくいので、1枚めくった資料5-2は、少しその例示として幾つか文章で書いたということになります。

まずは、今年度やる各館の評価の、今の評価シートの在り方、それから、スケジュールとしては、最初の資料2の裏にある今後の進め方、これはもう少し、資料がばらばらなので、一々皆さんも手元で資料3だとか、2だとか引っ張り出さなくちゃいけないので、大変だと思いますが、資料2の裏にある今後の進め方で、10月の2回目が6館、3回目の1月が10館、それぞれ個別にやっていくと、こんなようなスケジュールと評価シートの構成

でまずはよろしいかどうか、ここらあたりの意見を今日伺おうという趣旨であります。

早速です。皆さん、お気づきの点が何かあればお出しください。それから、さっきの資料6、この指定管理については、質疑が一通り終わったところで、また資料6についてお尋ねしたいと思います。まずは資料2と資料5あたり、いかがでしょうか。

委員 ありがとうございます。資料5 - 2の中身に入る前に、今年度の全体のスケジュール感とか、立てつけをまず確認させていただいてから中身の議論に入りたいなと思っていますので、ちょっと全体の構成なんですけれども、基本的な考え方として、今年度、各館の詳細なところの中身を見ていくという方向性については賛成でして、そこについては、進め方自体はあまり違和感は感じませんでした。

一方で、ちょっと気になっているのが、最後の4回目で検討のまとめ方というところなんですけれども、各館の評価と、あと全体的なマクロで見たときの相対的な比較です。昨年度はビジョン6つに対して、足りているところ、足りていないところ、先ほど副会長のほうからも話がありましたが、それが各館の取組を見たときに、全体感として、方向性として正しいのかどうかという、その全体評価というところが、できれば最後の4回目あたりとかに入ってくるんじゃないのかなと思っているんですけれども、まずはその進め方、各館の評価をした結果、どのように検討結果をまとめていくのか、このあたり、事務局のほうからまず考えを伺えればと思います。

会長 いかがでしょうか。事務局のほうで今の委員の指摘に対して説明があれば、どうぞ。

事務局 おっしゃるとおり、そういうつながりが出てくるといいんですが、あくまでこちらは昨年度の取組にはなってきます。そういった中では、各館がPDCAがあまりできていないという課題もあったので、できれば、各館としてつなげていければと思っていましたが、全体とのつながりというのは、そこまで意識ができていない部分があるんですが。

会長 そういうことなんですか。今、委員が言われるのは、この会議の4回目で、3月のときに、各館の取組のまとめができるんだったら、全体としてそれがどういうふうに、

全体の目標が達成できているのかどうか、この館あたりの取組は十分だけれども、この館あたりの取組がまだ一部足りないんじゃないかとかというのは、全体としてのまとめは、私は時間的には十分可能だと思うんですが、ただ、一方で事務局が言われるのは、去年やったのは令和3年度の実績なんです。今年度各館についてやるのは令和4年度なんです。だから、年度のずれが多少ある。だけれども、私は、やっぱりこれは第2次ビジョンがもととも令和4年度から令和5年度というように、そういう区切りになっているので、その差異はともかくとして、この協議会としてやった令和3年度の全体の評価と、令和4年度にこれからやろうとしている令和4年度の各館の評価とのバランスとか整合性とかというのは、議論することは十分できそうに思うのですが、委員が言われたのはそういう趣旨のことですか。

委員 はい、そういう趣旨でして、もう少しかみ砕いて言うと、例えば各館で強みは十分にどんどん伸ばしていただきたいと思っていますので、各館の個別の評価というところは必要だと思っています。ただ、強みを伸ばすだけで、本来そこに足りていない課題は何だったのかというところは、やっぱり全体を通してマクロで見、足りているところ、足りていないところというのは、全体を俯瞰して見る総合的なガバナンスというのがこの協議会では必要なんじゃないかなと思っていました。

会長 ありがとうございます。今補足していただきましたが、いかがですか。

事務局 ありがとうございます。そういった趣旨でございますね。確かにそういったところはぜひやっていけるといいとは思いますが。

会長 私としては、それはぜひやったほうがいいですね。やっぱり第4回の会議の最後のあたりで各館のまとめができたところで、今強みって言われたけれども、全体としてのバランスだとかを考えるとというのは必要な作業だろうとは思いますが、私としてもぜひその時間は取りたいと思います。というようなことでよろしいですか。

ありがとうございます。今年度の取組について、ほかにいかがでしょうか。

委員 この評価の中の16館の中には図書室がないのですけれども、そのところがもう少し、うちの一番近いところは図書室なので、同じ内容の評価でなくてももちろんいいんですけれども、ぜひ何らかの形で残していただきたいなと思います。

会長 ありがとうございます。図書室に関してはどうでしょうか。

事務局 図書室については、今回例示で出させていただいているように、取組の内容を具体的に書きづらいところが正直ございます。図書館カウンターについても同様で、今回対象にしておりません。

会長 ということなのですが、いかがですか。まだ何かあれば。

委員 地域からは、図書室もいろんなことを地域と一緒にしませんかというお声をかけさせていただいているんですけれども、図書室だからしないという回答なんですね。なので、そういうことじゃないんじゃないかと思うので、ぜひもっと前向きに図書室の方々も考えてほしいなと思ったので、言いました。

会長 ありがとうございます。これは中央図書館の所管部分として、今出てきたような図書室の課題とか問題を取り上げて、先ほどの評価シートに、中央図書館の分に反映させるということにはできないのでしょうか。

事務局 そういった分では、御指摘のとおり、中央図書館の所管として図書室を評価していくということは十分必要かと思っておりますので、ちょっと持ち帰らせていただいて、次回までに検討させていただきます。

会長 ぜひよろしく願いいたします。

委員 私からは質問です。この令和4年度の取組の目標、それから実施状況、PDCAのサイクルが書いてあるんだと思うんですけれども、これはもう既に令和4年度ですから、実際にその期首に各図書館が挙げていて、それについての取組状況と結果を書いてい

るというものなんでしょうか。令和5年度も今も、期首と言っていいかどうか分からないですけれども、やはり既に取組目標を設定していて、今取り組んでいると。そういう意味では令和4年度はもう事実ということになりますけれども、それを書いているという理解でよろしいですか。

会長 続けて、委員、発言をどうぞ。まとめて事務局のほうでお答えください。

委員 私は先ほど委員の質問を聞いて、やっぱり全体のまとめがとっても大事だと思いました。そこで、この資料5-1の各館のシートの最初に各館の課題を書く欄があってもいいかと思いました。それから、図書館全体として、各館の特性とか位置づけとか、図書館全体が各館に求めているものとか割り振っている役割とか、そういうのがあればそれを書くべきだと思いました。また、今の委員の質問を聞いて、このシートは令和5年度を取組の目標にしたほうがいいんじゃないか、そうすると、逆に進めやすくなるんじゃないかなと思いましたが、いかがでしょうか。

会長 ありがとうございます。今お二方から出された質問について、まとめてお答えなり説明をしていただければと思います。

事務局 事務局としては、まず、取組の年度に関しては、昨年度からも出てきており、過去のものをやることになってしまうというのは、ここはやはりPDCAを考えていく上ではどうしても仕方がないのかなと思っています。そういった中で、令和4年度に関しては、目標があって、そこに対して取り組んだことということで、理解としてはそれで結構なんですけど、実際、指定管理を行っているようなところであると、確実にこういったものは掲げているんですけども、直営でやっているところは、少しそういう目標の意識が薄かったりとか、そういったところはもしかしたら出てくるかもしれません。ただ、考え方としては、もう令和4年度でやっているものなので、もともと掲げていた目標に対しての取組の実績というのを記載していくものだと考えております。

また、中央図書館の役割というところはなかなか分かりづらいところもあったんですが、ただ、各館の課題を書くべきだという御意見に関しては、おっしゃるとおりだなと思っております。

会長 そうすると、取組の目標というところは課題に変えるんですか。

事務局 課題に変えるということではないと思っています。課題ということも書いておいたほうがよろしいというふうに私は認識したんですが、いかがでしょうか。目標は目標でしっかりもともとあるものなので、これはしっかり記載すべきだとは思っています。ここに対してその目標が出てきた課題というのであれば、しっかりそこは書いておいたほうがいいという理解でおりますが、どうでしょうか。

会長 今の説明で委員、よろしいですか。

委員 期首にこういうところが弱いなというふうに考えて取り組んだということであれば、強みをどんどん出すのもよいけれども、弱みがどういうところにあるのかということも分かったほうがいいと思いますが、ここにどんどん書いていくと大変なことになっちゃうなという気もするんです。目標を設定した際の発想を、課題は、何が弱いのかというところから考えたり、強いところを伸ばそうと考えたり、2種類あると思うんですけれども、それらを簡潔に記載できるように工夫できればなと思います。それが先ほど委員が言われた、令和5年の目標とか課題を書いたほうがいいんじゃないかということにもちょっと通じるところなのかなという気がします。

事務局 それでは、今見ていただいているシートの右側に「令和4年度取組みに対する自己評価や課題」となっているんですが、この書き方だと、ここで表現をした取組だけに対する課題となってしまいますので、今、委員に御指摘いただいたように、そもそも期首、当初に課題として考えたところとか、通年で考えた場合の課題というのをもうちょっとシャープにするために、こちらのところを「令和4年度取組みに対する自己評価」で1回止めさせていただいて、新たに項目として、自己の図書館の課題というのを独立させて表示させていただければ、取組だけじゃなく、もともとその図書館が持っている課題もそこに記入させるようにするというのはいかがでしょうか。

会長 という新しい提案が出されましたが、ちょっと私はかえって分かりづらいと思います。だって、これはどう考えても現状分析をやり、課題が分かったから目標を立てたん

じゃないんですか。普通目標を立てるときには、どう考えても、過去がどうだったかを分析し、何が課題かを捉えた上で、では、来年度こういうのを目標にしましょうというふうにするのが一般的だと思います。だから、この目標は、委員が言われるような課題を踏まえているんじゃないんですか。そうして目標を掲げている。次に、右ページに行って、自己評価をやってみて、自己評価の結果、令和5年度以降の課題が何か見えてきたときに、この右上の四角の欄に課題として書くつもりだったんじゃないんですか。

事務局 本来はそういうつもりだったんですが、もしそうであれば、逆に左側の取組みの目標のところには課題と目標というふうにさせますかね。

会長 それでもいいですけどもね。左側のほうに課題と目標だと、それでいかがでしょうか。そうすると、右のほうでも自己評価をやった結果が、やっぱり持ち越した課題というか、そういうものが浮かび上がってくるんだろうと思います。

委員 この様式そのものについての質問なんですけれども、左の上から下、右の上から下という書式自体が、ちょっと私は見慣れない書式なんですけれども、これはこの型式である必要性があるものなののでしょうか。全ての項目の中に基本方針1、2というのが示されているので、単純に縦軸を基本方針、横軸に目標、取組、自己評価、課題というエクセルのような表示の仕方にしたほうが、1つの基本方針に、横で1本見ていけば一覧できるという書式に変更するのはいかがでしょうか。

会長 なるほど、縦系と横系ですね。だから、基本方針が縦系になって、それぞれの目標や取組といったものが横系に入ってくるという。

委員 そうしますと、例えば令和4年度に向けての期初の課題、それから4年度の自己評価に対して生じた課題、なんでしたら、5年度の基本の取組、目標みたいなところまで横に見ていくことができるのではないかと思うんです。

会長 いかがですか。これは書式の問題ですね。書式をそういうふうにするかどうか、ちょっと検討してみてください。ありがとうございました。

委員 私はぱっと見たときに、この内容がイベントの評価なのかなとちょっと思いまして、あり方検討の資料の28ページのところにある図書館サービスの項目があったんです。業務分類というところがあるんですが、それは、結局、Bの集会行事についてしか書いていないような気がして、多分もっと蔵書の整理とか、レファレンスの反応だとか、もっと各館の、それこそやっぱり狭いとか広いとか、座席があるとかないとか、もっと各館としての評価はなさらないのかなというのがちょっと私は分からなくて、イベント力を競うのは図書館ではないと思っていて、もちろんやっていただければ、楽しめますし、ありがたいんですけども、ただ、ふだんの図書館は、欲しい資料がすぐ手に入るというか、蔵書が、例えばどうしても知りたい本がここにはなかったとかというサービスについての評価がないというのはどうなのかなというのが1つ。

これを書くのは職員の方ですよ。職員の方の自己評価ですよ。職員の方というか、できれば、館長の方とかに御自身の図書館を客観的に判断していただいた上での、職員が忙しいから、ちょっとここは汚れていてもしょうがないねとか、そういうことではなくて、御自身が、例えばここはきれいなほうがいいとか、もしかしたら、トイレが散らかっていたとかあると思うんですけども、そういう全体として個々の図書館がどうなのかという評価をしていただかないと、多分私たちが職員の方の書いたイベントの評価をしても、どうなんだろう。この書式だと、どうしてもそういう感じが私は濃厚で、図書館本来の情報サービスとか資料管理とかとここに書いてあるんですけども、そちらのほうにはほとんど触れられていないというのはどうなのかなと思いました。

会長 ありがとうございます。ごもっともだと思うんですが、今の点はいかがですか。

事務局 こちらは今、例示で出させていただいたところではあるんですが、各館によっては基本方針の別の項目を捉えてこれに記載してくるかもしれないと思ってこの様式にしています。これは例示がたまたま基本方針の中で、どちらかというとイベント型を書いているので、そのように御覧いただいているのかと思うんですけども、我々としてはもう少しほかの基本方針を、例えば大人の学びを豊かにする図書館であるとか、暮らしや仕事に役立つ図書館というのを掲げてくる図書館があると想定しております。

会長 ということなんです。これはたまたま例示がイベントの実施と書きちゃったから、委員のような捉え方をされる方もいるのかもしれませんが、例えば資料が探しにくいとか言われましたよね。そういうふうなことがその図書館の課題であって、来年度、もう少し利用者の方が資料を見つけやすくしようというのを、当然取組なり目標に掲げる図書館もあっていいということにはなりますが、ぜひ今のような意見を出していただいて、各館の取組がもう少し利用者目線とか、区民目線のものになるように、今後この協議会から働きかけていければとは思いますが。ありがとうございます。

委員 私はこの取組の目標というのが、言い方はあれですけども、書くときには、多分当初予定していなかったけれども、こんなことをやったから、最初の目標をこれに書きゃおうかなみたいなふうに書かれちゃうんじゃないかなと思って、だったら、もう基本方針の1から6まで全部、さっきのエクセルじゃないけれども、表にしちゃって、それについてどういうことをしましたみたいなことを書いて、それによって自己評価とかをやすくしたほうがよいのではないかなと思います。

会長 今、基本方針1から6と言われたのは。

委員 基本方針の取組の目標を自分たちで定めるんじゃなくて、その基本方針を全部書いておいて、これについてどうでした、これについてどうでしたみたいな報告みたいな。

会長 基本方針は、図書館ビジョンで区全体なんですね。今回は各図書館の取組なので、それが当然図書館によって違うんですよ。

委員 だから、それについて、もちろんできている、できていないとか、やっていないとかでもいいんだけど、こういうことを、目標はもちろんあるんだけど、その取組については全部についてこういうことをしたというふうに、報告じゃないですけども、そうやって一覧化すると、今度、ここが弱いなというような自己評価につながるんじゃないかなと思うんですけども。

会長 先ほど言われたように、縦系と横系で確かにそれぞれの基本方針が各館のものへの取組がどうなっているかというのを分かりやすくしたほうがいいという意味では、先ほどの委員の御指摘と基本的には同じということになりますか。ちょっと違うんですか。

委員 まあ、一緒に大丈夫です。

事務局 今、両委員の御意見を聞いて、確かに感じてきたのは、我々として基本方針1から6がおのおのの地域館にも影響する話と、図書館全体で取り組む話と交ざってしまって、1から6全部を項目の例えば右側に並べて書くというのは、最初は断念したんです。ただ、今、皆さんの意見をこうやっていただくと、例えば基本方針1の0歳児からの読書を支える図書館から基本方針4の世田谷の魅力を収集・発信する図書館までは、各地域館で共有してやる取組であって、基本方針5と6については、これは図書館全体の話になるので、これを除かせていただいて、それを横軸として、縦軸にこういった取組の目標を定めたのか、それを具体的にどうしたのかというのが、1から4までマトリックスで表で表すこと自体は可能だと思っています。

ただ、我々は、最初、1つだけ書かせていただいたのは、書く量が半分減っちゃうと、紙じゃなくてもいいんですけども、物量的に表現が減ってしまうかなと思って、1つの目標を掲げてもらって、その取組状況を書かせていただくと考えていました。ただ、考え方としては、委員もおっしゃったように、図書館の目標はいっぱいある。そのいっぱいあるやつの中で1つだけしか出てこないのは分かりづらいというふうにも御意見が聞こえたので、3人の委員の方の意見を聞くと、1から4までの基本方針を並べて、その中で具体的に何を取組目標にしたのか、そしてどういう結果だったのか、最後に反省と課題というふうにするという構造にするのは、一応今お聞きして可能だと思いましたが、ほかの委員の方の御意見もちょっと聞いてみたいと思います。

会長 ありがとうございます。対応可能だということのようなんですけど、いかがでしょうか。

委員 運営協議会が立ち上がりまして、今年度初めて各館の評価を取り組みますという初年度なので、初年度のまず位置づけをどうするかというところがまず1つ重要なポイ

ントかなと思ってまして、ちょっとそこについてコメントさせていただきます。

私の考えとしましては、初年度は、まず網羅性はやっぱり必要かなと思っています。先ほど事務局がおっしゃったように、方針の1から4、これが世田谷区として掲げているので、それに対して各館はどういう取組をしていったのか、あとそこに対して自分たちが思っている特徴はどうか、課題はどうか、まず網羅性を今年度はしっかり出していく。そこについて評価をしていく。できれば、先ほどの話が出ましたとおり、取組の評価は4年度するんですけども、その右側に、ぜひ今年度の目標、各方針の目標だけはもう今からでも立ててもらいたい。やっぱり行政として過去の評価をしていくというのは、行政の取組は、百歩譲って理解しましたと。とはいえ、今年度は始まっているわけですから、昨年度の結果を見つつも、せめて今年度の目標は各方針に対して入れていく。

まず、初年度は網羅性が必要かなというのは1つ私の意見です。来年度につきましては、そこから強みを出していくとか、こういう特徴のところをどう伸ばしていくかという来年度の取組みシートは、また別途考えればいいのかかなと思っているんですけども、今年度は網羅性は大事かなというのが私の意見です。

会長 ありがとうございます。ただいまの委員の御指摘というか、提案についてはいかがですか。

網羅性というのは、いま一つ私はよく分からないところもあるんですが、網羅性って。

委員 ちょっとそこを補足すると、皆さんの意見の繰り返しになってしまって恐縮なんですけれども、この書き方ですと、マクロ的に見た方針に対して、これは取組みシートなので、各館が取り組んでいたのか、取り組んでいなかったのかというのは見えないというのが評価ができないと思っているんです。そこについては、会長、いかがでしょうか。

会長 これは取組の目標なので、この例でいけば令和4年度にこういうものを目標に掲げてやったんだと、実績がどうだったから、さっきの自己評価や今後に残された課題がどうだったかというのがこの評価シートに書かれてくるというふうに考えているんです。だから、網羅性というのが、全てを網羅するのは実はなかなか難しいし……。

委員 ここでいったときには、例として方針1、2が書かれていないので、取り組んでいたか、取り組んでいなかったのかというところが見えないと思っているんですけども、そこが多分ちょっとずれていますよね。

会長 だから、方針が1つになるのか、2つになるのか、3つになるのか分かりませんが、各図書館でこういう方針を掲げて令和4年度取り組みました。その実績がその下のほうに出てきて、その図書館としては自己評価がこうなっているというのが多分右ページに出てくるんですね。先ほど委員が言われた令和5年度に何を目標に掲げたのかぐらいは確かに書けることは書けるんです。ただ、その実績は、令和5年度が終わってみないと分からないので、そこまではできないけれども、令和5年度はこういうのを目標に掲げてこの図書館はやっていますというようなことは対応可能なんだろうとは思いますが。

それから、今、委員が言われたようなことで、もう少しこの取組みシート、この体裁というか、書式を変えらるということはできますし、先ほど来出ている縦系と横系がもう少し見えやすくするというようなことも、少し事務局で検討して、次回また改めて提案をさせていただくということにしたいと思えます。

この評価シートについてほかにいかがですか。

委員 今のこのテーマに対するこの会議の話の進め方が、文脈がよく取れないのですけども、これは令和4年度の各館の取組について評価するというのが趣旨なわけですよね。もうこの形で、例えばこの例示にある資料5-2の図書館については、令和4年度は基本方針の3と5と4について、特に中心的に取り組んだという、もう既に終わっていることなんですよ。それがたまたまこの例では1つの館ですけども、これが全ての地域館についてこういうものが既にあるわけなんですか、よく分からないんですが。基本方針は6つあるんですが、既に各館は6つではなく、そのうち幾つかをセレクトして取り組んだというのがあるわけなんですか。その全体が、そこのところがよく分からないのですが、これからこれを考えるのか、あるいはもう既にこれは令和4年度のことなので、去年1年間、昨年度1年間、この方針に基づいて取り組んでいたのかどうか、そこのところがよく分からないのですが、教えていただきたいと思えます。

事務局 大変見づらいところではあるんですが、令和4年度については、おのこの館で目標を立ててやったというわけではないです。基本的には図書館ビジョンがあって、その下に行動計画という計画があって、それに基づいて各館がそれを意識して地域運営をずっとやってきたと思うんです。ただ、その中で濃淡があって、今回私どもが提示したシートに落とせるものを自分でピックアップして落としてくれという考え方でこれを作りました。ですから、ほかの委員さんがおっしゃったように、これは横並びで比較できないような状態でした。ですから、先ほどほかの委員からも提案していただいたみたいに、基本方針の例えば1から4までを横に並べてやると、弱いところ、強いところがかかり見えてくると思うんです。ただ、その記述の量はあまりたくさん書き込めないで、その文面から本当に弱かったのか強かったのかというのがちょっと分かりづらいかもかもしれませんが、基本的には図書館として全部の基本方針に基づいて地域館の運営もしておりますが、具体的にこの中でこれをやろうというふうに決めていた館もあれば、必ずしも決めていなかった館も正直ございます。決めていないけれども、すごくその取組に対して頑張った館もあれば、決めていたのにあまりやっていなかったということも正直あると思います。それを今我々は後追いで評価をしようとして、たまたまこのシートの書式を御提示しましたが、今、皆さんのいろんな御意見をいただいて、私自身も少し考え方が変わってきて、そういったいわゆる表形式にして評価していただいたほうが、ミクロの評価ながらも、全体が見えるのかなという気はしています。

会長 ありがとうございます。率直な意見表明だったわけなんですけれども、そういう形で分かりやすく各館の評価ができるのであればいいとは思いますが。ただ、そうすると、ここの各館の取組目標は、あのビジョンにあった基本方針の1から6までのいずれかが上がってくるんですか。私はもう少し各館によって個別の取組目標というのがあっていいんだと思っていたんですが、そうではないんですか。

事務局 先ほど申したとおり、基本方針の5と6はどちらかということと全体的なんですね。例えば5にしてみれば、図書館ネットワークの構築ということになっているので、これって地域館なり、中央館の単独で見たときに、表をちょっと書きづらいというか、自己評価しづらいと。また、6番の専門性と効率を両立した運営体制の構築というのは、これも図書館全体の話なので、各地域館で、もちろん自分の地域館では司書を増やそうとか、

お互いに勉強会をしようとかというレベルではやっていますけれども、それをこういうシートで表明するのとちょっとニュアンスは違うと思います。ですから、先ほど申したとおり、4までの具体的な各地域館や中央館の図書館ごとの取組の内容としては、基本方針の1から4が非常に書きやすいところであって、その下の施策の方向性のところまでもうちょっとブレイクしていくのかどうかというのは、こちらのほうでも検討させていただきたいとは思っています。

会長 ちょっと私の質問と違うんですが、私がお尋ねしたのは、各館の取組の目標は基本方針の1から6までのいずれかなんですかという質問、だって、それ以外のものがあったでもいいわけですよ。例えばうちの図書館は障害者サービスに力を入れますというような具体的に掲げてもいいわけですよ。そういうふうな、全体の方針は基本方針1から6であっていいですよ。でも、うちの図書館としてはそれとは別に独自の方針を立てることがあっていいように思っていたんです。そういうのはどう反映されるんでしょうかという質問ですが。

事務局 そうです。確かに、そうすると、ちょっと難しい。会長がおっしゃるとおりで、例えば経堂図書館のようにビジネスに特化したとなると、基本方針ときっちり合うところがあまりないわけです。第2次図書館ビジョンについては、障害者サービスについてもかなり記述がないところなので、確かに自分の図書館が障害者サービスにちょっと力を入れようといったところは、私が言っているように、基本方針の1から4に照らし合わせると、書き表せないということになります。

会長 だから、そういうのを含めて、次回、各館の主体的な目標が掲げられるような構成に、しかも、先ほど委員が言われるように一覧性が高いというのか、この目標についてはどうやって取り組んで、どの程度の成果が上がったのかというのが分かるような体裁というか、書式に修正ができるのであれば、ぜひ次回御提案いただきたいとは思いますが。今皆さんからいろんな意見が出ましたので、その全てとは言わないまでも、かなりの部分が反映できるのであれば反映していただきたいとは思っています。

副会長、今までの議論を聞いたところで何かございますか。

副会長 ありがとうございます。コメントと提案という感じになりますが、今議論に上がっている話って、図書館としてすべからくやるべき最低限のミッションをこの協議会で各館ごとに評価するかどうかという話だと思うんですよね。僕はその部分を各館で自己評価するのって結構難しいと思うんですよ。これは提案なんですけれども、今、目黒区の指定管理の評価の委員をやっていて、例えばその委員会では、各指定管理施設ごとに利用者アンケートを取っているんです。そうすると、アンケートの中でこの施設を利用してよかったこととか、課題だと感じることを自由記述で結構利用者の方が書いていただいて、それが指定管理の評価委員の中で参考資料として共有されるんですね。今日、参考資料でアンケートがありますけれども、これも多分各館ごとに回収を行っているようですので、例えば自由記述のところを各館ごとにピックアップした資料をこの場で各委員が見て共有できるようにしておくと、何かすべからくやるべきミッションに対して、利用者からクレームが入っているのか、それとも感謝の言葉があるのかとか、そういうことが見られるかなというように思いましたので、それが1つやり方としてあるんじゃないかなと思いました。

あと、先ほどの目黒区の話で言いますと、クレームがあったときとか、何かトラブルがあったときにどう対応したかということを自己評価で回答してもらおうというのを評価委員のほうで見られるようになっていまして、例えばそのような内容を各館に書いていただいたりとかすると、すべからくやるべきその図書館運営の部分でちゃんと対応はできているのか、できていないのか、利用者の方がどう感じているのかというのが見られるようになるのかなと思いました。

それとは別で、やっぱり会長がおっしゃられたみたいに、各館で掲げている目標とか、力を入れて取り組んでいるものの評価はやっぱり大事だと思いますので、それに関しては、今御提示していただいたようなフォーマットに近いものにはなるんだろうなとは思っていたんですけれども、それプラス、今言ったような利用者アンケートの話とか、トラブル、クレーム対応の参考資料みたいなものを我々に提供していただけると、議論がしやすいのかなと思いました。

会長 ありがとうございます。確かにアンケートでのコメントというか、自由記述なんかも、昨年度やったときも、アンケートのコメントなんかが、たしか自己評価とか課題、右ページのほうに例示的に出されるようになっていまして、この各館の場合に

も、そういったことはこの書式の中に反映されるんだろうと思います。

先ほど事務局から本当に率直にこれまでの実態をお話しいただきましたが、これまで逆に言えば世田谷区は、この手の区民による評価というのがなされてこなかったわけなんです。それをとにかくこの協議会のルーティーンに乗せてきちんと点検、評価していくということ自体は極めて重要だろうと思います。そういう意味では、評価の枠組みだとか、評価のシートにまだまだ不備はあると思いますが、まずはとにかく1年間このサイクルを回してみることが極めて重要なんだろうと思います。

また改めて委員の皆さんからもいろんな意見や提案を出していただいた上で、少しずつこの評価シートを改善し、区民の皆さんが、確かに図書館は図書館で区民の意見、利用者の意見を聞きながら評価をしているんだと、これがいわゆるマネジメントの改善なんです。ガバナンスだけではなくて、こういったマネジメントが改善されていくということが重要だろうと思います。いろんな御意見をありがとうございました。

ほかにこの資料5が中心になりますか、この評価シートについて何か御意見、改善案があれば。

委員 先ほど各館の特性とか役割とかという質問に対して、特に分からないというような簡単な回答だったのですが、やっぱり利用者が一番知りたいのは、先ほど経堂はビジネス支援にというようなことがありましたように、この館はこのような特徴を持って、何を掲げてやっているのかということだと思います。ですので、確かにお役所的にはその決まった基本方針についての評価というのが大事かもしれませんが、利用者としては、もっと自由に各で課題を出してほしいと思うので、それが令和4年度が無理であれば、逆にその令和4年度の評価を踏まえて、令和5年度には、今もう始まっているので難しいのかもしれないですけども、出せるようにしてほしいなと思いました。そうしないと、逆に何で各館の評価を、取組評価をやるのかというのがよく分からないんじゃないか、中央図書館だと結局は同じ結果になるのではないかと思うので、各館やるということの意味を、まずは各館の特性をもっと各館で働く人たちが、そこを目指していいんだよというような方針に転換するということができたらいいなと思いました。

会長 ありがとうございました。今の点については、多分、事務局から何か補足説明があらうかと思いますが、いかがですか。

事務局 地域館においては、その地域の特性に沿った図書館という面と、それから、地域に限らず、自分の図書館としての特性を出していきたいというところが多少混在しているところがありまして、場所によっては、地域に由来の人の著作を集めていくとか、芦花公園の動画を集めていくとか、そういったことで特性を出そうとしているところもありまして、それが今までは、その地域の特性なのか、図書館としての目標なのかが少し混在していたというのは事実だと思います。逆にそういったところを、運営協議会委員の方々に指摘していただいた方向性の、区民の方が希望する方向性を教えていただいたりすることが、今後の運営に役立てていきたいと思っています。

会長 ありがとうございます。今、委員が言われた令和4年度のこの評価をやって、それを令和5年度、現在進行形ですが、それは確かになかなか難しいんですが、当然これは令和6年度の事業にはこの評価の結果が反映されていくと、そういうふうにお考えいただいているんだと思います。昨年私どもがやった全体の評価が令和3年度の実績に基づくものでした。当然それは今度は令和5年度、今年度は令和6年度に反映されていくということになります。現在進行中の令和5年度には、今回の評価はなかなか反映しづらいということにはなります。それはどうしても、PDCAのサイクルでタイムラグというのか、時間のずれを生じちゃうんです。それは以前、ほかの委員の方からも御指摘があって、これはちょっとやむを得ない限界だろうとは思っています。

まだ御発言のない委員にも御発言いただきたいと思いますので、今までの議論を聞いたところでいかがでしょうか。

委員 10月のところで中央と、あとは業務委託の館ということだったのですが、これはどうして業務委託の館が先にあるんですか。

会長 分かりました。併せて回答いただくので、もう1人、何かお気づきの点があれば今お出しください。まとめて事務局から御回答をお願いしますね。

委員 気づきというほどではないんですけども、この評価シートのほうは、第1印象としては、この4年度の取組についての枠が、個々に各館で1年間取り組んだ内容をここで済ませてしまうのはもったいないなという印象は受けました。きっとここではどうして

も見栄えのするイベントとかが今たまたま出ていたんだと思うんですけども、いろいろな細かい取組もあるものをここで収まるのかなというのは個人的にちょっと印象はありました。

あと、これだとやっぱり弱いところは出てこないんだろうなというのも思いました。

会長 ありがとうございます。今、お2人の委員から指摘がありました。まとめて何か回答があればお願いします。

事務局 まず、なぜ業務委託と指定管理のところなのかということなんですが、そもそも2回目にこの図書館ビジョンの素案について、皆さんにもちょっと意見を伺うといいのかなと思っていましたので、そういった数の分配、配分の話と、なぜ業務委託か指定管理かということ、業務委託、指定管理というところは、しっかりと目標をプロポーザルの時点から掲げて出しているの、比較的書きやすいということもあり、そういった事情で分けております。

先ほど来そういった御質問の中で、事務局としては、1つか2つ、一番掲げやすいような目標を選んでもらってはどうかということはこのシートの中には書かせていただいています。網羅的にどこまでできるかというところは検討させていただきたいと思うんですが、各館、なかなか負担になってしまう部分も出てくるのかなというところでは、今もっと細かいところとか、弱いところというのも各館の課題だと認識していれば、そういうところは自由に書いていただいてもいいとさせていただけると大変ありがたいと思っています。

会長 ということなんですが、よろしいですか。

それでは、まだ御発言がないようですので、委員どうぞ。

委員 何を話せばいいかちょっと、私は民間ですから、行政の過ぎてしまった年の反省をしているというのはどうもなじまないんですけども、まず、記入例で、記入例は大事なので、この記入例を各館に示してしまうと、そのとおり書いてくるとか、だから、できたことだけを書いてきますよね。そうすると、見たいものが隠されてしまいますので、記入例はすごく大事なんですよ。むしろ何も書かないほうがいいかもしれませんね。

それと、なぜ各館評価をするかという、目標は何かというところに立ち戻ると、全部で16館ですか、実際、この中にはサービスの質と量が随分落差があるんですよ。この中央図書館や世田谷とかと小さな弱小な図書館とを比べれば、もう雲泥の差のサービスの違いがあるので、それを実は浮き彫りにしてほしいなと思うんです。お互いに、例えばここにないものは中央図書館に行けばあるよというような形を、そういう高低のあるでこぼこの姿が見えると一番いいかなと思うんです。

また同じあれですけども、令和4年度はもう終わっていますよね。終わっているのであれば、これは一括して16館全部エクセルの表にしまえばどうでしょうか。平等の感覚から言うと、本当に知りたいのは、よくできましたというところじゃなくて、サービスが至っていませんねというところが大事なんだと思うんですよ。ですから、この会議では、サービスにでこぼこがあって、行き届いていないところをどうやるかというところに焦点を当てたらどうかなとは思っているんですけども、取りあえずここでやめておきます。

会長 ありがとうございます。

委員、いかがでしょうか。

委員 先ほどどなたかも網羅的に、1から4のと、共通の目標みたいなのがきっとあるんだろうから、そこのところは表にどの程度達成できているのかというのが分かると、1つ全体が見えるなというのと、やはりこういうのは私は大事かなと思いますね。ここは自己点検のところなんでしょうか。それと先ほどアンケート等のお話もありましたけれども、それが他者評価になるんだろうと思うので、その資料を総合して我々がこう考えていくというようなところがあるとやりやすいなという印象はあります。

以上です。

会長 ありがとうございます。今のお二方の質問にまとめて答えていただく前に、ちょっと私も先ほどの委員が言われたように、全体、そういう意味では、今日の資料の5-3というのは全て、それこそ図書室やカウンターも含めての統計の一覧ですよ。これを見れば、委員が先ほどでこぼこと言われましたね。それぞれに実は規模も違う、蔵書数も違う、当然貸出しの冊数なんかも違うということが一目瞭然なんですけど、これとその前の各館取組みシートはどう関連づけられるんでしょうか。単に数量的な評価は、この資料の

5 - 3のような一覧、これは多分もともと区の図書館関係の資料から抜粋、抜き出して、34ページ、35ページと書いてありますから、これはどういうふうに関連づけられるんですか。あわせて、お2人の今の委員の御指摘にも答えることになるかとは思いますが、いかがでしょうか。

事務局 こちらの説明がまず足りていなかったですね。資料の5 - 3については、今回、参考ということで一覧をつけさせていただきましたが、「世田谷のとしょかん」の統計資料のほうに載っているものになっております。

こちらは事務局として考えたのが、でこぼこというお話は確かにあるんですが、各館のできた、できていないみたいな評価ということではなく、今回、課題であったり、できているところとかが見えてくれば、そこを次の年、もしくは2年後につなげていくということが大事なのではないかと思ってこういう表をつけさせていただきました。もっと言ってしまうと、できた、できていないみたいなところをいろいろ見ていくのであれば、やっぱり経年で見えていく必要もあるのかとか、いろいろ議論はあったんですけども、規模が違ったり、特性も違ったりというところはこの一覧で見ていただいて、その上で各館での、自由に目標などを選んでいただいてというところを考えていた次第でございます。

会長 ということですね。だから、これも生かしつつ、なおかつ、各館で、先ほど言われたように、自己評価をこのシートに基づいてやる。それを我々がこういう自己評価でいいのかどうか、こういう視点も欠けているのではないか、あるいはその地域図書館を実際に利用している方もこの委員の中にはいらっしゃるんだと思います、中央図書館以外に私の家から近いのはこの図書館だと。その利用実態と、ここでの評価の在り方のギャップをぜひ埋めるような働きかけをこの場を通じてやっていただければと思います。そういうふうな方向で、取りあえず、今年度各館の評価に取り組んでいきたいというふうな提案なわけです。

これまでの議論を聞いたところで、さらに追加のコメントがあればお聞かせいただきたいんですが、委員いかがですか。

委員 感想のようなものになってしまうかもしれないんですが、今日初めてというか、各館の取組みシートというものを拝見して、どういうものなのかという説明がないと意味

が分からないなと思ったんです。先ほどから皆さんがいろいろ質問なさっているのは、多分説明がないからだと思うんです。だから、例えば、いきなり資料の5のところ、取り組みの目標ということで基本方針の3とか、5とか、4と書いてあるんですが、なぜこれが突然出てきたのかというような説明が全然ないので、唐突感があるので、それで疑問に思ったんじゃないかと思うんです。区民の方に公表するに当たっては、これこれこういう趣旨でこんなふうに作成しましたみたいなのをつくられるとよいか、そういうものを私たちも最初に見せていただければ、かなり具体的にというか、こんな趣旨でこんなふうにつくったんだというのが分かったところで議論ができたんじゃないかと思うんです。

以上です。

会長 ありがとうございます。ごもっともだと思います。そこらあたりの説明の時間を多少削っても皆さんに自由に発言していただいたほうがいいたろうという私の考えがありまして、皆さんからいろいろと御指摘や御提案をいただきました。

次に、副会長、これまでのやり取りを聞いた上で御意見をお願いします。

副会長 先ほどでこぼこという話があったんですけども、ちょっと気をつけたほうがいかなと思うのが、単純に蔵書数が多いからいいという話ではなかったりとか、単純に貸出率が高いからいいということではないと思うんですね。やっぱり各館ごとにアクセスのよさや利用者の属性、建物の新旧など条件が違うので、どうしても頑張っているけれども、その辺の数字がほかと比べると落ちてしまう図書館とあってあると思うので、そのような数字を横並びで比較すること自体にはあまり意味がないと思っています。もしそういうものを数字で見るのであれば、例えば前年度と比べてどうだったかとか、そういうところを見たほうがいいんじゃないかなというふうに思いました。ただ単純に定量的な数字を横並びで比較するとちょっと危ないなと思ったので、そこだけは留意いただいて、次に出される資料の中で、どんな数字を出すかというところをちょっと工夫していただくといいいかなと思います。

会長 ありがとうございます。

お待たせしました。委員、どうぞ。

委員 ありがとうございます。評価の今一番のポイントというと、やっぱり最初の目標の設定だと思うんです。ただ、今回の場合は、過去のものを評価することなので、既にその目標が設定されていないという状況の中で、事務局としては今回、基本方針を上げさせていただいて、仮に置かせていただいた。おっしゃるとおり、やっぱり各館、課題があって、各館ごとの目標設定というのが必要だと思うので、これに基づいて将来的には評価すべきものなのかなと感じました。ですが、今現在、令和4年に戻って目標設定するわけにはいかないで、ビジョンのほうで定めさせていただいた方針に基づいて、各館がどういった取組をしてきたか、そこを一旦評価をしていただいた上で、今大体おっしゃっていることはそんなことなのかなと思います。その館、その館で課題もありますし、一般的には管理運営面の話、あとは事業の話だと思うんです。執行上の管理運営面の課題と、あと事業に関する課題だと、そこについて、各館で目標を定めた上で、事後、今後続いていくと思うので、その点に関しての評価をいただくというのが、流れとしてはいいのかなというふうに感じました。

会長 ありがとうございます。一通り皆様に御発言をいただきました。結局、これは各館の評価をやるということは、うちの図書館は、確かに副会長が言われるように、規模は小さい、あるいはアクセスはよくないかもしれないけれども、こういう点で頑張っているんだ、ここがうちの図書館の売りなんだ、今でいう推しなんだというか、そういうところをここに書いていただければいいんだと私は思うんですよね。うちの図書館はこういうのを目標にやって、ここまで達成できているんだと。再三御指摘のあった強みというのを生かしているんだ、逆に一見規模は小さくて弱みのように見えるけれども、そこを生かして地元との交流をこんなに密にやっているんだというところがあるのであれば、それをぜひここにうたっていけばいいんだらうと思います。そういう自己評価の在り方について、私どもはこれでいいよ、もっと頑張ってくださいとか、こういう視点も欠けていますよというなことを指摘していけばいいんだらうと思います。

私は会長の立場から発言しにくいんですが、全ての図書館について、全ての側面を網羅的にこの場でやっていくというのは、現実にはなかなか難しいのではないかと。年に4回、しかも1回2時間の会議でやらざるを得ないだけに、各館がうちはここを見てほしいというようなところをこの取組みシート、この書式については、いずれもう少し改訂版が出されるんだらうと思いますが、ここに反映されたものを私どもは見て、それぞれが独自

に評価をやっている、それを点検していけばいいだろうというふうに思います。それがかなり時間がかかっても、いずれは世田谷区の図書館の底上げ、そして全体の水準向上につながっていいと思います。

とにかくこの協議会が発足してまだこれから2年目が始まりますので、いろんな不備もあるかと思いますが、少しずつ皆さんの意見を反映させて、よりよいマネジメントの一端としての評価、点検のシステムをつくり上げていきたいというふうに考えますので、今後も積極的に御提案、御発言いただきたいと思います。

ひとまずこの資料5についての議論をここで打ち切らせていただいて、もう一つ、先ほど事務局から、資料6です。この後、資料6について取り上げたいと思いますので、最後に委員、発言があれば、どうぞ。

委員 先ほど委員が言っていたところなんですけれども、ちょっと私も思ったところがありまして、2回目と3回目に分けて、検討、と本当にしていく意味はありますかというところでした、この件、年に4回しかないの、今回初年度なので、各館の取組の深掘りをしていくのか、全体感を見て、特徴をまず見て、そこを押さえるのか、その方向性によってわざわざ2回分けるのか、1回にまとめてしまって、まず全体を見ましょう、初年度は全体をまず見るんです。私はそっちのほうがいいのかなと思ってまして、そうすると、3回目、4回目をまたもっと充実した、もっと深掘りした違うアジェンダというか、お題目でまた進められるのかなと思っています。

会長 ありがとうございます。今の点、いかがですか。

事務局 評価シートの構造もちょっと検討させていただくので、多分10月についてはどこまで書き込めるかは別として、全館分を一旦お見せする形にしていきたいと思います。ただ、その全館分の中でも、物によってはちょっとこの項目が書き切れないというのが出てしまうかもしれませんので、1回そのシート自体の評価もいただきたいので、次回の10月については、我々が考えたシートの様式と、実際にその書き入れた全てではない部分について見せていただいて、最終的には3回目の1月に書き込んで、さらに委員の意見も書き込めるような形を取って行って、4回目に完成させるというようなストーリー立てに変えていきたいと思います。

会長 ありがとうございます。委員が言われるように、2回目と3回目をこの区分で行くかどうかはちょっと留保しておいて、差し当たり、10月と1月に分けて各館の評価シートを点検していくということにさせていただければと思います。委員、よろしいですか。

委員 今、言っていることがちょっと違わないですか。

会長 同じですね。要するに2回目と3回目でこの各館のをやっていると、10月に全部16館をやるというわけではありませんよね。

事務局 こちらが今想定して、さらに持ち帰って検討させていただきなきゃいけないんですが、新しいシートについて言うと、もう少し全館網羅的な表を作って、途中の項目が抜けているところがあっても、少なくとも全部の16館の名前が入っていて、一定項目については記述したものを提出していきたいと思います。ただ、場合によっては、基本方針の2と3はちょっと書き切れないとか、そういったところがあると、基本方針の1だけは全館分が書いてあるみたいな形は出していただけるかな。

ただ、もう一つ想定させていただくと、次回2回目は、図書館ビジョンの素案の、皆さんのほうに御意見もいただきたいところがありますので、1回目はあまりたくさん時間を費やせないと思うんです。ですから、フォーマットの確認と一部の項目の記述の点だけで、詳細については3回目にさせていただくという形を取りたいと思っています。

会長 多少私の理解と違うかもしれませんが、とにかく2回目と3回目、10月と1月で全16館からの取組みシートをやや完成に近いものにする。ただ、書式も見直すということもありますので、どこまで2回目で進むか分かりませんが、2回目と3回目で、その2回分で16館の評価シートをまとめていくということでもよろしいでしょうか。

ありがとうございます。

それでは、もう一つの資料6、この指定管理施設に係る事業報告、これについての説明も先ほど事務局からございました。これについて何か御意見、御質問があればお願いしたいと存じます。資料6になります。

委員 指定管理施設は、アウトラインは知っているんですけども、この資料の見方で、指定管理施設というのは、例えば数字的にはどこにその効果が一番出てくるんでしょうか。どこを見ればよかったな、悪かったなというのが分かるんですか。

事務局 よかったか、悪かったか……。

委員 例えば支出が減ったとか、そういうことは効果として出るんですか。要するに数字的にどこに現れるのかがちょっとよく分からなかったんですけども。単にこれは結果を書いただけですか。

事務局 そうです。結果を書いてあるだけです。

委員 そうなの。入る前と比較したらこうなりましたということじゃないんですね。

事務局 それはやっていません。別紙で見ていって6の事業の評価、別紙1のページでいうと6ページになるんですが、これは最初の烏山のところですけれども、ここは評価分類というのがあって、ここにあるように、きちんと指定管理者として実施できているかというのを見ているところがあって、こちらで劣っているところがあれば、劣っているというのが分かると思う。ただ、これは図書館向きにカスタマイズされているわけではなくて、先ほど言ったように、いろんな美術館や文学館や保養所施設も全部共通で使っているので、図書館的な評価とはちょっと違う面になっています。

会長 ということなんですが、委員、よろしいですか。いわゆる商業施設であれば、これだけ売上げが伸びたとか、利益が上がったとかというのがありますが、図書館は御存じのように、非営利活動というか、営利目的の施設ではないので、今言われたこれの17ページが項目別の評価結果となっているんです。評価項目が1から6まであって、施設の維持管理、施設の運営、事故や緊急時等の対応等々となっていますので、これの17ページのところです。基本的には円滑に施設の管理運営がなされているかといったところで、指定管理の評価をなさざるを得ない。ここでは100点満点中の78点ということですか、したがって、総合評価がここではAということにはなっております。これをとにかく議会でこう

いう形でやって、特に大きなトラブルもなく終えたというような評価なんですか。ここにも年度評価所見というのがありますが、東京農業大学や大宅壮一文庫と連携し、様々な取組を実施したことについて評価できるというような書きぶりになっております。

ほかにこの資料6に関して何か御質問はございませんか。

委員 これを評価したのはどなたなんですか。

事務局 先ほど最初に申したとおり、まず自己評価があって、その次に区側で再評価しています。

委員 区の評価はどなたがされているんですか。

事務局 職員ですけれども。

委員 職員の方が、この項目に対して、また新たに御覧になって評価をしたということになるんですか。

事務局 はい、そのとおりです。

委員 この数字、ここに書いてある各館の6の事業評価に関しては、どういうふうに評価が、お互いに評価をし合った数字ということになるんですか。例えば変な話、業者の方は半分ぐらいだったけれども、区の方が見たら8割できたとか、そういう数字の違いみたいなのはなかったんですかね。

事務局 これは区の評価ということで、職員ではあるんですが、組織として中央図書館で評価しているものになっています。事業者のほうでできていると言っている、区のほうで見て、いや、それはできていないよねということで変えた部分もありますが、当然言われているものについて、そこは確かにできているよねという評価も主にはなっております。

事務局 今御指摘いただいたのは、6の事業評価の評価は、その後に書いてあるとおり、指定管理所管による評価です。業者の自己評価は、ここは反映しておりません。この項目以外の、先ほど会長に御指摘いただいたような年度の評価の所見とかというところは業者の自己評価になります。ですから、業者の自己評価のところと区側の評価のところがちょっと交ざっちゃっている。

会長 そういうことね。失礼しました。

委員 は業者の方なんですか。

会長 と ね。

事務局 前半の部分が、業者が自己評価をしてきたところですよ。ですから、自己評価というか、報告をしてきたところと、自己、自分で説明してきているところ、この数字の部分については区の評価になる。

会長 そうなんですね。委員、分かりましたか。私もよく分かっていない。

委員 もう一回言ってもらっていいですか。すみません。

事務局 もう一度言いますと、これは3つの図書館の評価ではありますが、おのあの6の事業実績の評価、数字の部分です。ここについては区だけが評価します。業者の指定管理を受けたほうの自己評価はここには全く入っていません。区だけが評価しています。それよりも前のページの記載してある、例えばイベントをやっただとか、これは業者側の報告になりますし、5の事業実績の評価と改善の取組みというところが自己評価になります。

委員 では、項目の1から5が事業者で、6は区だということですね。

事務局 そのとおりです。

委員 分かりました。ありがとうございます。

会長 ありがとうございます。私もよく確認できました。6は、確かにここに施設管理所管課による評価となっていますので、図書館の場合には中央図書館ということですね。ほかにこの資料6に関してはよろしいでしょうか。

ありがとうございます。

それでは次に、議題に戻ります。議題の2でしたね。ここにやや時間を割かせていただきました。

続いて、議題の3、改築後の梅丘図書館についてというふうになっております。これは梅丘の今改築中の図書館のこととして、資料7に基づいた説明があり、その後、委員の皆さんから御質問を受けたいと思います。まず、資料の7について御説明をお願いいたします。

事務局 では、時間も押してまいりましたので、簡単に説明させていただきます。

今、梅丘図書館は改築中で、これから工事に入っていくところです。コロナに入ったということで、ちょっと3年間延期になったんですが、今年度から工事という状況でございます。予定している建物としては、羽根木公園の中にもともとある図書館を改築、建て替えるというものです。地上3階建て、平米数としては2000平米、蔵書数としては概ね今9万冊弱なんですけれども、規模としては恐らく同じぐらい、9万冊から10万冊程度の、そういう規模の図書館になるかと思っています。

具体的には、この図書館、昨年11月の議会文教常任委員会に報告した資料なんですけれども、こちらは令和7年の秋頃完成となっていますが、今の時点では、いろいろありまして、令和8年2月頃のオープンということを想定しております。具体的にどんな建物かということをお話をして、せっかくなので、新しくできるものなので、いろいろこんなことができるんじゃないかとか、御意見をいただければなと思って今回示させていただきます。

別紙2というところにカラー刷りの資料がございます。事前に見てきていただいているところもあるかと思いますが、簡単なポイントだけを説明させていただきます。1階に関しては、にぎわい、交流など、そういったところをコンセプトにしたフロアになっておりまして、1階に入りますと、すぐエントランスがあって、その後、奥にはワークショッ

プエリア、ものづくりなんかができるような場所、それから、入って左側には予約図書コーナーという、よくほかの自治体でも最近多いですが、ICタグが入ったことで自動で受け取れる予約のコーナー、それから、入って右側のところでカフェエリアということで、飲食可能なエリアをここに設けていきたいと、そういう交流やにぎわいといったエリアになろうかと思っております。

1枚めくっていただいて、2階になりますが、もともと梅丘図書館は閲覧席がかなり多く、108席ございます。ここの2階のエリアにも閲覧席、カウンター席だけではないんですが、110席程度の座れる場所をつくり、自分に合ったおのこの居場所をつくっていただければいいのかなと、また、新しい発見ができるような、そんなフロアになっていただければいいのかなと思っております。

もう1枚めくっていただいて、3階のところですが、梅丘図書館の大きな特徴として、羽根木公園の中にある図書館、3階がちょうどテラスで羽根木公園とつながる、そういったコンセプトになっております。3階はもともと子ども中心のコーナーだったんですが、子どもだけで使ってしまうのではなく、ファミリーでいろんな方が居心地よく使えるようなフロアにできないかということで、昨年度少し設計を変更しまして、こういった形でつくっておりますが、ここは羽根木公園ともつながるし、自然を感じながら、そんなくつろぎのコーナーにしていければと思っております。

というわけで、ハードのほうは主にもう固まってきているものではあるんですが、こういった新しい図書館ではこんなことができるんじゃないかとか、こんなことをやってほしいとか、もしそういう御意見があれば伺ってみたいと思ひまして、今回つけさせていただきました。

会長 ありがとうございます。ここで提案すれば必ず実現するというわけでもなさそうではあります、何かお気づきの点、あるいは御要望等があれば承りたいと思ひますが、いかがでしょうか。

委員 震災のときのための飲料水とか、食料の備蓄とか、毛布とか、そういうのは検討されているんですか。

事務局 こちらは特に避難所とか、そうなっている施設ではないので、そういった備蓄物品というものは特に用意はしていません。

会長 そうなんですね。今、公共施設は大体そういう震災対応というのは、災害対応はするものと私は思っていました。

委員 するものだと思っていましたけれども。

それとあと、これはセキュリティーみたいなのはどうなるんですか。アメリカの図書館というのはホームレスの方が結構ずっと住みついたりするんですよ。いずれ日本もそうなるとは言いませんけれども、子どもさんがたくさんいて、いろんな事件が世の中にありますよね。セキュリティーはどんな感じで考えていらっしゃるんですか。

事務局 そういう意味では、3階は子どもコーナーが中心にはなりますので、当然そういったセキュリティーについては、しっかりと人の目、それから防犯カメラを含めてセキュリティー対策は万全を期したいと考えています。

会長 セキュリティーというか、いわゆる危機管理なんですね。犯罪者だとか、不審者が出た場合の公共施設としての対応とか、あるいはもちろん地震、火災というものもありますので、危機管理は当然区のマニュアルがあって、それに沿って対応していくことになるんだろうと思います。あるいは盗難だとか、そういうふうなセキュリティー対策も当然公共施設として一定のルールがあるとは思いますが、むしろ私は災害のときの食料備蓄だとか、そういうふうなものは当然今やるものかとは思っていましたが、ここではそうではないんですか。

事務局 当然意識はしていく必要があるかと思うんですが、なかなか限られたスペースもありまして、区全体の中の役割としては、そういう避難のスペースということにはなっていないんですが、当然意識はしていかないといけない問題かとは思いますが。

会長 本がたくさんあるので、地震のときに当然倒れたりする。書架なんかはちゃんと固定するというのが規則なんですけど、図書館の場合はどうしても本があるので、地震のと

きの避難所としてはあまり向いてはいないということは事実ですけれども。

ほかにこの梅丘の図書館に関して。

委員 こちらの資料の2ページ目の3の(4)の今後に向けて、ここについてもう少し詳しく説明いただきたいんですけれども、というのも、この場で意見を求めるというのは若干違和感を感じます。地域に根差した図書館であれば、聞く先は地域の住民じゃないかなと。そうしたときに、この計画、着工から準備に向けてどういった形で地域の方々と連携して、その声はこの場ではなくて、住民からより吸い上げていくのかなと思っていますので、ちょっとその取組について聞かせてください。

事務局 この梅丘図書館はいろいろございまして、工事まで大分延びたんです。もともとは平成27年ですか、ワークショップで地域の方からたくさんの意見をもらって基本構想をつくって、そういったものをコンセプトにこの設計に入っていました。そういった意味では、地域の方からはいろいろ意見は伺ってきました。ただ、今申し上げたように、平成27年に検討したものが、やっと今工事になっていて、かなり時間がたってきています。そういった中で、全体の利用者の皆様の意見も聞いてみたいというところで今回伺ったんですが、確かに地域の方に改めて意見を聞いていくという視点も当然必要かとは思っております。

会長 ということなのですが、よろしいですか。

委員 はい。

委員 梅丘、私は前のも古くてすごい好きだったんですけれども、図書館という感じですごい好きだったんですけれども、新しいものもいいんですが、そこでやっぱり一番気になったのは、小さい子を連れていったときに、エレベーターが欲しいなというのがあったんですけれども、今回エレベーターが書いてあるんですが、大きさはベビーカーでいったらどれくらい使えるような大きさなのかな。上の3階までお子様がいらっしゃる、やっぱり赤ちゃんをお持ちの方とかがいると思うので、実際ベビーカーが入るという想定をしたときに、大体何台くらい入れるような大きさのものなのか。3階の、そのまま公園に行け

るというブリッジがあるんですけども、子どもが公園で遊んで、羽根木で遊んで、プレーパークで遊んで、図書館に入る。汚いと思うんですよね。なので、もし可能であれば手洗いができるところを、トイレだけではなくて、今からちょっと中につけるのは難しいかもしれないんですが、公園側でもいいので、入る前に手洗いとかができるようなところがあって、きれいにしてから図書館に入って、きれいな手で本を触るみたいな一応流れをつくれるようになっていただけると、ちょっと親としてはありがたいかなと思いました。汚い子なので。

会長 そういう御提案ですが、いかがですか。

事務局 まず、エレベーターの大きさなんですが、正確に記憶していないんですが、10から11人ぐらいのエレベーターだったかと思うので、恐らくベビーカーだと二、三台ぐらいまではいけるんじゃないかと思っています。

当然プレーパークも意識しているので、実は3階のデッキのところを渡ってすぐ入り口のところに手洗い場をつけてはいます。そこでちゃんと足なり手を洗ってから入るようにということは配慮しているつもりでございます。

委員 ありがとうございます。

委員 質問です。1階の カフェエリアというところですけども、ここではコーヒーが幾らとかって売っていたりするのかな、そして、そのコーヒーを飲みながら本が読めるのか、書庫にある本を持ってきてコーヒーを飲みながら読んでいいのか、その辺のことを詳しく教えてください。

会長 ありがとうございます。

手が拳がった委員も続けてどうぞ。

委員 3つ質問があります。1つは、開架量は現状からどれぐらいの差があるのかということ、もう一つは、2階のゾーニングなんですけれども、これはどういうコンセプトでこのゾーニングに決められたのかなということ、3つ目は、什器とデバイスなんですけれ

ども、何年くらいで交換をすることを想定されているのか、その3つをお伺いしたいと思います。

会長 以上4点になりますが、いかがでしょうか。

事務局 カフェに関しては、こちらはまずあくまで想定ではあるんですけども、コーヒーなどを飲みながら本を自由にここで読めるようなスペースを想定しております。ですので、ほかの階から持ってきた本をここで飲みながら読めるような、そんなスペースを考えています。

また、開架量に関しては、基本的に開架が一応6万5000程度の想定でして、閉架のほうは3万5000ぐらいで、まず合計10万、ただそこまでは当然入り切らないので、全体としてそのぐらいの蔵書数にいずれなっていけばとは思っております。

2階のゾーニングに関しては、本を何とか入れようというところもあって、いろいろ工夫したところではあるんですが、一部書架照明なども設けながら、そういった明るさ、特にここは羽根木公園からの光も入ってくることと、全面ガラス張りの割と外がすごく開けた場所になっているので、まずはどちらかということ、閲覧席をしっかりと確保しながら、何とか南側のほうの書架を少しずつ背を低くして開放感が持てるような形で、そういったゾーニングには気をつけたつもりです。また、一番、若い世代向け書架エリアというのが2階のところにあるんですが、昨年いろいろ検討して、少し若者向けというか、若い世代の方が隠れ家的にちょっと読めるようなスペースがあったほうがいいんじゃないかということで、こういう書架スペースにしております。

あと什器とデバイスというお話は、まだそういった想定まではできていないところはございます。申し訳ありません。

会長 お二方、よろしいですか。

委員 この資料はホームページとかでアクセスすることができますか。

事務局 こちらは、昨年の11月に議会のほうで常任委員会を出している資料になりますので、当然ホームページのほうでは閲覧できることになっております。もしよろしけれ

ば、ホームページのアドレスなどをつけたものを皆さんにメールなどを送らせていただくようにいたしますので。

会長 では、それはお願いしますね。

あとさっきの質問にもあったように、これはいずれ説明会はやるんですよね。ここに「説明会の実施などを通じて」と、さっきの今後に向けてにありますが。

事務局 やはり区民の方にも説明していく必要があるとは思いますが、実際にはどこまでそういった説明会ができるかというところがあります。ただ、もう工事に入っていくというタイミングもありまして、近隣に住んでいる方の工事説明会は当然やるんですけども、ちょっとそのあたりの周知、意見についてはまた相談しながらやっていきたいと思っています。

会長 そうなの。ここには、さっきの(4)今後に向けてには、「利用者向け説明会の実施などを通じて、利用者からの視点を取り入れながら、什器やサービス内容等の検討を継続して進めていく」とお書きになっているんだけど、まだ先がよく分からないようですが、説明会とか、特に工事をするわけだから、地元、周辺の住民の方への説明会は必要だと思いますが。

事務局 住民の説明会は当然しっかりとやっていきます。また広くこういった御意見を地元の方にもう一度取り直したりとか、そういったところをどこまでやるかというのは検討中というところでございます。申し訳ありません。

会長 引き続き、きちんと丁寧な説明をしていってください。

委員 私たちは、基本的に評価をするというところで集まっています。我々の立場からは、この図書館というのはどういう課題があって、それをどう解決しようとしているのかというところをお聞きしたいです。また、その各館の売りとか、そういったことというのに目を向けていくべきだという話をさっきまでしていたので、今、お話をうかがったところでは、若い世代向けの書架エリアなどを売りにしていけばいいのではないかと思います。

た。その辺のところについては何かお考えはありますか。

事務局 梅丘図書館につきましては、新聞報道もされたんですが、世田谷区の中では最も古い図書館としての建物でした。御利用なさった方は御存じかと思うんですが、古い時代の図書館なので、閉架式書庫といいまして、中央にカウンターがあって、利用者が本棚に行けないという初めのコンセプトでつくった内容です。ですから、実際の現在まだ建っている図書館は、いわゆる図書館の書架というよりは、保存庫のような非常に使いづらいような状態でしたので、老朽化も相まって建て直しをするということが課題の解決ということになります。

コンセプトとしましては、いろいろ図書館ビジョンであるとか、様々な検討なり計画の中で望ましい図書館というのをうたってきましたが、具体的に新たな図書館として建築するというのが、今回梅丘が久々なんです。そういう意味でいうと、昨今の図書館に望まれているゆとりあるだとか、コンフォートであるとか、そういう滞在型の図書館というのを具現化するいわば最初のチャンスかとは思っております。ですから、その滞在型の図書館と実際今までの資料を提供する図書館との両方のいいところを併せ持って提供できればなと思っております。

会長 ありがとうございます。委員、よろしいですか。

委員 はい。それによって評価指標などは今後変わってくるということですか。

事務局 そうですね。評価指標も変わってくると思います。

会長 いずれ、そうでしょうね。当然新しいコンセプトでつくられた図書館ですから。

委員 では、ぜひ私たちに教えていただき、評価についてをここで検討すべきかと思いましたが。

会長 いずれこれが軌道に乗ってサービスが始まれば、当然この協議会でもそういう視点で評価を、この梅丘の図書館の評価をしていくことになると思います。

重箱の隅をつつくようで申し訳ないんだけど、これは区民にとって大事なので、この説明資料の3ページの一番上、工事期間中の図書館資料の取扱いって書いてありますよね。工事期間中、これを読むと、今9万点の本を持っていて、ほかの区立図書館には所蔵していない資料が8000点あると、つまり世田谷区の図書館でこの梅丘にしかないという資料が8000点あるんです。そのうち貸出頻度の多いのは中央図書館の保存庫に移管する。だから、それは工事期間中も利用できるんだと、それはいいですよ。それは8000点のうち何点ぐらいなんですか。逆に言うと、それ以外はこの工事期間中、世田谷区の図書館では梅丘にしかないにもかかわらず、区民は利用できないという意味ですよ。それはどれぐらいなんですか。正確じゃなくてもいいですよ。

事務局 正確な数字は分からないんですが、1500程度が今、この中央図書館の地下の保存庫にあります。

会長 そうすると、1500は使えるんですね。

事務局 はい、そのとおりです。その他については倉庫会社に預けております。

会長 それは途中で段ボールを開いて、この本を使いたいという人がいても利用できないという意味ですよ。

事務局 大変申し訳ないですが、そのとおりです。

会長 そういうことになりますので、区民の皆さんは事前にそれを知っておいたほうがいいと思います。その資料は梅丘にしかない、梅丘で持っているんだけど、その間区民は利用できないということになります。その資料を見たいという場合には、やむを得ずほかの自治体、あるいは東京都立図書館あたりから借用するということになるんだろうと思います。

事務局 そのとおりで、前回話題になった相互貸借で提供させていただくことになります。

会長 ということですので、皆さん御了解というか、これは了解していただくほかないね。ありがとうございました。

ちょっと時間が過ぎましたので、そろそろこれで今回の協議会を終わらせていただきたいと思います。

次回は、先ほどの話にもありましたように、10月ということになります。皆様、御都合はいかがでしょうか。

〔日程調整〕

会長 そうしましたら、事務局で皆さんと日程調整して、10月の後半で皆さんの都合のつく日の18時半開催ということにさせていただきたいと思います。

これにて第1回の図書館運営協議会を閉会させていただきます。遅くまで皆さん、お疲れさまでした。ありがとうございました。

午後8時33分閉会